

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700061		
法人名	有限会社 美作名倉堂		
事業所名	グループホーム 武蔵の里		
所在地	岡山県美作市下庄町905-1		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為、従来行っていた地域との交流行事は実施出来ず、ご家族様との家族会、福祉ボランティアを招いてのレクリエーションも行えない状況であるが地域特産の黒豆の提供を地元農家より受け豆よりを行ったり、武蔵の里で育てたサツマイモを学童に提供し、児童からお礼の手紙を頂く等、可能な範囲で地域との交流維持に努めている。コロナ感染対策も徹底し、施設内での発症、クラスターは全く無い状態を維持している。医療面では主治医の診断の下、抗精神薬の減薬等、利用者様の健康維持に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393700061-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 3 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が楽しみや喜びを感じることができるホームを目指し、職員は毎日のケアに笑顔で取り組んでいる様子が見られた。駐車場の草取りや施設内は隅々まで清掃が行き届き、嫌な匂いも一つせず爽やかであった。これは、普段から職員が頑張っている結果であり、施設長は「綺麗にしてくれて、いつもありがとう」と感謝の気持ちを述べていた。職員間は何でも話せる関係ができていて、職員間の仲の良さが評価中からも窺えた。その仲の良さが、利用者にも派生して、利用者同士が和気藹々と会話している姿を評価員は目の当たりにした。「何かすることははない？」と利用者は意欲的に職員に問いかけをしたところ、雪かきや鍬を使って作物の収穫を手伝うことで、自分の生きがいへと繋がっている。コロナ禍で面会がしにくい環境の中で、利用者が家族にハガキを送ることで、疎遠にならないように工夫している。外部とは、地域の方から黒豆を頂く関係が今でも続いている。母体の整骨院からの運動指導や何かあればすぐに駆けつけてくれる体制が整っていて、さらに協力医との連携もできているので、利用者や家族の安心に繋がっている。「地域の方にアピールできるグループホームです」と施設長は自信を持って答えてくれた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各ユニットに掲示しており、いつでも振り返れるようにしている。	理念は、事務所と各ユニットに掲示している。手作りの理念を事務所に掲示することで、職員の目に触れやすくして、会議の際に振り返ることもある。法人の理念にもある「笑顔」を大切にしている。職員が笑顔で接することで、利用者も笑顔で居心地よい環境となっていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多目的機能支払い交付金を活用し、地区で黒豆を制作している。地域の方々と協力し、栽培・収穫を行っている。	町内会には加入していて、定期的に溝掃除や草取りに参加している。地域の方と共同の畑があり、黒豆を作っていて、草取りや収穫の際には、地域の方との交流ができています。小学生からの年賀状やひな祭りの飾りを頂いたり、放課後等デイサービスに施設で採れた野菜を届けたり、食している写真や感謝の手紙が返ってきたりした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時には武蔵の里が緊急避難場所となる事も法人では想定しており、食糧等の備蓄も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員、家族様、市職員が参加していただき、情報交換の場としているが、今年はコロナウィルスの影響で集まる事が難しいため議事録を作成し、民生委員、家族様、市職員へ情報の周知に努めている。	GHの職員のみで開催。利用者状況、行事報告、運営事項・感染症対策について話し合った。会議の内容は、包括と家族の方には郵送し、区長と民生委員には直接手渡しをすることで face to face の関係が継続できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染症予防の対応や、災害時の情報を共有し、緊急時には支援を得られるよう連携に努めている。	窓口の基本は、計画作成担当者だが、不在の場合は、両ユニットの管理者が対応している。研修の案内などは施設長宛てにメールで届くことが多く、年末に虐待防止研修の案内が来て、計画作成担当者が参加した。警察の方が、ポスターやカレンダーを持ってきてくれる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、ミーティング時に内部研修を行っている。玄関の施錠については地域で空き巣、窃盗事件が頻発しており、防犯の為やむを得ず施錠を行っている。	身体拘束はしておらず、研修は年2回行っている。身体拘束廃止委員会では、新聞での事例を取り上げて、職員間で意見を出し合い、今後のケアに向けて取り組んでいる。研修に出た職員は、内容を回覧することで職員間で情報共有ができています。スピーチロックについても、施設長が会議の際や現場でも注意している。	スピーチロックについても取り上げてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例の検討会を行い、普段のケアの中で、虐待行為に当たる接遇を行わないよう、お互いに注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、成年後見制度を利用されている方もおられ、行政との実践的な関りからも制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を本人様、家族様に十分に説明し、改定がある場合は、必要に応じて改めて同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会規制を行っているので、電話で状況報告をこまめに行っている。その時に家族様の意見を伺うよう努めている。	家族様お便りで利用者の様子がわかると好評。ラインを活用して、行事や日常生活の様子を知らせることでタイムリーな情報が得られる。写真を見た家族から髪が伸びているという指摘があり、散髪屋に連れて行ったこともある。寒がりな方へはカイロの差し入れがあり、愛用している。産毛剃りをしたいという方へは、理髪店の予約を入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務連絡、毎月のミーティング時や、それ以外にも随時意見を受け付け、対応している。	何かあればその都度、施設長が個別面談を実施している。全体と各ユニットで会議をしている。全体では、備品・物品購入や研修の予定についての意見が多く飛び交う。ユニット会議では、利用者の1人ひとりのケア方針や情報共有をしている。管理者と計画作成担当者との連携がよく取れていて、職員間の仲が良いことで、利用者に寄り添う介護ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表者は個別面談を行い、職員の勤務状況の把握に努め、権利擁護についても十分配慮し、問題が生じれば速やかにその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士国家試験受験者の内部研修や実務者研修など、オンラインでの研修と対面での研修を織り交ぜながら、新しいスタイルでの研修の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、交流の機会や情報交換の場を持つようにしている。今年はコロナウィルスの影響でオンラインでの研修の参加の機会が多い。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の思いを汲み取ることに十分な配慮を行い、安心して話せる環境作りが出来るまで、施設に都合には合わせず、本人様にご納得頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望を伺い、具体的な対応例を挙げてGHでの生活を理解していただき、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よりご本人様に適した利用計画を立て、過去の事例にとらわれず必要なサービスを実行できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護するだけでなく、人生の先輩として年長者を敬い接する事に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の訴えに対して家族様にも対応を検討、協力していただき、より良いケアが出来る様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の馴染みの店との関係を保ち、ご友人との連絡交換も継続している。	家族に対して、ハガキを書いたり、電話でのやり取りをしていることで関係が継続されている。今では職員が馴染みとなり、「今日は来てるの？」と出勤を今か今かと待ち遠しくしている方もいる。テレビの前のソファが馴染みの場所となり、会話を楽しんでいる様子を評価員は目の当たりにした。リビングの席が今では馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の人柄を配慮しつつ、施設運営の都合にとらわれず利用者様の自発的な関係作りの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の相談にも、他の介護サービス事業所の紹介等、希望に沿える様、可能な限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を第一にとらえ、可能な限りその人らしく生活できるように支援している。	入居時に家族から生活歴を確認している。入浴時の1対1の場面や夜勤にも意見が出やすく、貴重な場となっている。さりげない利用者同士の会話も見守る姿勢で、聞き取るように工夫している。不安になった場合に、家族の方から直接電話をして頂いたことで安堵感が生まれた。洗濯物や作業にも意欲的に取り組んで頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの情報をもとに、出来るだけ在宅時と変わらない生活が送れるように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを基本とし、本人様の状態に合わせた柔軟な支援、対応をするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、必要があれば関係医療機関の意見も伺い、職員一丸となって適切な計画作成を行っている。	入居時に暫定プランを立てて、何もなければ基本半年毎に見直しをしているが、安定されている方は1年毎に見直しをしている。モニタリングは毎月実施していて、利用者に寄り添ったプランとなっている。介護計画は、カンファレンスを実施して、担当職員や管理者の意見を聞き取った上で、計画作成担当者が中心となり作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化する利用者様の状況把握に努め、個人の主観にとらわれず、介護に関わる全職員の気づきや様子観察の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設から情報収集したり、行政へも相談して迅速に対応出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の農産物を利用した祭事食等で利用者様に季節感を感じて頂く等、地域の特色を施設運営に生かせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の往診を中心に、必要に応じて訪問看護、病院受診に行ったり、専門医への受診も対応している。また、家族様対応にて、かかりつけ医の受診に行かれる方もいる。	かかりつけ医は、入居時に選べるが、協力医に全員が転医している。月1回の往診がある。母体の接骨院が何かある場合には、訪問してくれる。膝が痛い方には、動画の配信と直接適切なアドバイスを聞くことができた。協力歯科医は近隣なので、職員が連れていき、他科受診も職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な対応が必要と思われる場合は、些細な事でも訪問看護に電話で状態を伝えられる様、関係を密にしており、迅速に専門的な判断を仰げる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院へ、情報提供書を作成し提出している。現在コロナウイルスにより面会もできないことから、入院先へ電話連絡にて状況確認をしながら連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り家族様の意向を尊重しながら介護を行い、急変時はすぐ家族様に報告連絡し、協力医療機関に受け入れの協力をお願いしている。	看取りは実施していない。入居時に重要事項説明書にて説明し、同意を得ている。看取りをできるだけ最期までできるように食事などの配慮をしている。急変時には、協力医に電話連絡をして指示を仰いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練でAEDの使用法や心肺蘇生法を、緊急時に備えて救急隊員から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を使用しての定期連絡訓練と法人本体からの支援の体制作り、近隣の自治会役員様にも施設の状況をお伝えし、協力依頼を行っている。	年2回火災、夜間想定で実施した。ハザードマップと避難経路はリビングに掲示し、連絡網は各ユニットの電話付近に置いてある。消防署の訪問があり、水消火器を使った訓練も行った。備蓄は、水、衛生品やマスク、消毒液を2日分程度保管している。気象情報を把握していて、台風などの場合には、食料品を多く買うように工夫している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症によりコミュニケーション能力が低下した利用者様にも可能な限り意思の疎通を図る様努力している。	呼称は苗字に「さん」付けだが、同性の方は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る際には、ノックや言葉掛けをしてから入室するようにしている。排泄失敗時には、「ちょっと来てください」と言葉掛けをして、周りに気づかれないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に画一的なスケジュールを提案せず、本人様の意思、意欲を可能な限り尊重しながら生活の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合った生活が出来る様、生活パターンの把握に努め、利用者様の希望の実現に必要な支援を行う様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者様には、レクリエーションの一環として、化粧をしたり、皆様散髪に出かけるなど行い、着衣についても本人様に選んで頂く事で気分転換もを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	祭事食等で食事に季節感を取り入れ、栄養補給にとどまらない食の楽しみを得、本人様の食の志向にも配慮するよう努めている。	3食ケイタリングだが、副菜は手作りの時もある。ご飯と味噌汁は施設内で作っている。行事食として、巻き寿司やお汁粉を提供し、おやつ作りとして、パンケーキを作ったこともある。お盆には、箸かスプーン、副食の形状、ご飯かおかゆ、と利用者の食形態の情報がわかるように記入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在食事は、食品業者に発注しており、カロリーや栄養面ではバランスが取れている。水分は飲み物の好みにも配慮し、摂取量が少ない方には必要に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの実施、義歯洗浄剤を使用している。また必要に応じて協力歯科医院の受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄周期を確認することで、ポータブルトイレの使用等、個々の心身の状態に合った排泄支援を行っている。	排泄チェック表を活用していて、オムツで入居された方が、リハパンに改善された。夜間のトイレも職員が介助することで、排泄ができるようになり、本人の喜びにも繋がった。布パンツで過ごしている方も数名いる。各居室にトイレがついていて、ない部屋は居室横にトイレが設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や食事形態、体操など体を動かすことを意識している。必要に応じて医師の診断を受け服薬コントロールを実施する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分により、入浴を拒否される方もおられるが、無理強いせず実施日や時間をずらす工夫し、状況に合わせて気分よく入浴していただけるよう支援している。	週2～3回。お湯は掛け足しで、浴槽に浸かる方が多い。ヒートショック対策として、ファンヒーターを置いている。入浴を拒否される方には、時間や職員を変えて言葉掛けをして、「どうしても一緒に来て」や車イスを使用して誘導する工夫が見られた。同性介助を希望する方には対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や衣類温度調節など、季節ごとの状況を考えながら支援し、安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧をファイリングし、いつでも確認出来る様各ユニットに保管している。薬が追加された際には、申し送りを行い全職員への周知し、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭きなどの家事手伝いだけでなく、体操や歌などのレクリエーションを通してさまざまな支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により、外出の機会は減っているが、ドライブに出かける等、季節を感じていただく機会を持っている。	近隣の散歩や玄関前の椅子に腰をかけて、日光浴をしている。雪かきやいもの収穫時に鍬を使って収穫をしたり、洗濯物干しや畳むのを手伝ってくれたりする利用者もいる。黒豆を頂いた際には、駐車場で豆のしょうやくを行い、ドライブがてらキャラクターのかかしを見に行ったこともある。	コロナ終焉後に向けて、今から計画をしてみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある利用者様には、職員が同行し、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話だけではなく施設のタブレットを活用し、家族様とLINEで繋がることで、ビデオ通話を利用し、面会ができない中でも顔を合わせられる機会ができ、好評を頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは身体状況に応じ、各利用者様で必要となる支援が異なる点に充分注意しながら、より快適な空間を提供出来るよう努力している。	天窓から明るい光が差し込む開放的なリビングでは、午前・午後ティータイムが日課となっている。季節感を味わって頂けるように、ひな祭りの作品を飾っていた。作品を大きくすることで、作業がしやすく、見えやすい工夫がされていた。テレビの前の椅子やソファに腰かけて、会話をを楽しんでいる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごすことが好きな方もおられるため、共有スペースで過ごすことを強制せず、それぞれの利用者様が安心して過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設からの制限は基本的に設けず本人様、家族様の自由にご利用いただいている。	備え付けは、エアコン、ベット、サイドテーブル、イス、床頭台、洗面台、施設のカレンダー。1部の部屋にはトイレもついている。TV、携帯、本、化粧品、家族写真が持ち込まれていて、自分らしい趣味嗜好が反映された空間となっていた。また自分で模様替えをする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレや各個人の居室、洗面台等、出来るだけ自身で解る様表札を設置している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700061		
法人名	有限会社 美作名倉堂		
事業所名	グループホーム 武蔵の里		
所在地	岡山県美作市下庄町905-1		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為、従来行っていた地域との交流行事は実施出来ず、ご家族様との家族会、福祉ボランティアを招いてのレクリエーションも行えない状況であるが地域特産の黒豆の提供を地元農家より受け豆よりを行ったり、武蔵の里で育てたサツマイモを学童に提供し、児童からお礼の手紙を頂く等、可能な範囲で地域との交流維持に努めている。コロナ感染対策も徹底し、施設内での発症、クラスターは全く無い状態を維持している。医療面では主治医の診断の下、抗精神薬の減薬等、利用者様の健康維持に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393700061-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が楽しみや喜びを感じることができるホームを目指し、職員は毎日のケアに笑顔で取り組んでいる様子が見られた。駐車場の草取りや施設内は隅々まで清掃が行き届き、嫌な匂いも一つせず爽やかであった。これは、普段から職員が頑張っている結果であり、施設長は「綺麗にしてくれて、いつもありがとう」と感謝の気持ちを述べていた。職員間は何でも話せる関係ができていて、職員間の仲の良さが評価中からも窺えた。その仲の良さが、利用者にも派生して、利用者同士が和気藹々と会話している姿を評価員は目の当たりにした。「何かすることははない？」と利用者は意欲的に職員に問いかけをしたところ、雪かきや鍬を使って作物の収穫を手伝うことで、自分の生きがいへと繋がっている。コロナ禍で面会がしにくい環境の中で、利用者が家族にハガキを送ることで、疎遠にならないように工夫している。外部とは、地域の方から黒豆を頂く関係が今でも続いている。母体の整骨院からの運動指導や何かあればすぐに駆けつけてくれる体制が整っていて、さらに協力医との連携もできているので、利用者や家族の安心に繋がっている。「地域の方にアピールできるグループホームです」と施設長は自信を持って答えてくれた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各ユニットに掲示しており、いつでも振り返れるようにしている。	理念は、事務所と各ユニットに掲示している。手作りの理念を事務所に掲示することで、職員の目に触れやすくして、会議の際に振り返ることもある。法人の理念にもある「笑顔」を大切にしている。職員が笑顔で接することで、利用者も笑顔で居心地よい環境となっていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多目的機能支払い交付金を活用し、地区で黒豆を制作している。地域の方々と協力し、栽培・収穫を行っている。	町内会には加入していて、定期的に溝掃除や草取りに参加している。地域の方と共同の畑があり、黒豆を作っていて、草取りや収穫の際には、地域の方との交流ができています。小学生からの年賀状やひな祭りの飾りを頂いたり、放課後等デイサービスに施設で採れた野菜を届けたり、食している写真や感謝の手紙が返ってきたりした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時には武蔵の里が緊急避難場所となる事も法人では想定しており、食糧等の備蓄も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員、家族様、市職員が参加していただき、情報交換の場としているが、今年はコロナウイルスの影響で集まる事が難しいため議事録を作成し、民生委員、家族様、市職員へ情報の周知に努めている。	GHの職員のみで開催。利用者状況、行事報告、運営事項・感染症対策について話し合った。会議の内容は、包括と家族の方には郵送し、区長と民生委員には直接手渡しをすることで face to face の関係が継続できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染症予防の対応や、災害時の情報を共有し、緊急時には支援を得られるよう連携に努めている。	窓口の基本は、計画作成担当者だが、不在の場合は、両ユニットの管理者が対応している。研修の案内などは施設長宛てにメールで届くことが多く、年末に虐待防止研修の案内が来て、計画作成担当者が参加した。警察の方が、ポスターやカレンダーを持ってきてくれる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、ミーティング時に内部研修を行っている。玄関の施錠については地域で空き巣、窃盗事件が頻発しており、防犯の為やむを得ず施錠を行っている。	身体拘束はしておらず、研修は年2回行っている。身体拘束廃止委員会では、新聞での事例を取り上げて、職員間で意見を出し合い、今後のケアに向けて取り組んでいる。研修に出た職員は、内容を回覧することで職員間で情報共有ができています。スピーチロックについても、施設長が会議の際や現場でも注意している。	スピーチロックについても取り上げてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例の検討会を行い、普段のケアの中で、虐待行為に当たる接遇を行わないよう、お互いに注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、成年後見制度を利用されている方もおられ、行政との実践的な関りからも制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を本人様、家族様に十分に説明し、改定がある場合は、必要に応じて改めて同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会規制を行っているので、電話で状況報告をこまめに行っている。その時に家族様の意見を伺うよう努めている。	家族様お便りで利用者の様子がわかると好評。ラインを活用して、行事や日常生活の様子を知らせることでタイムリーな情報が得られる。写真を見た家族から髪が伸びているという指摘があり、散髪屋に連れて行ったこともある。寒がりな方へはカイロの差し入れがあり、愛用している。産毛剃りをしたいという方へは、理髪店の予約を入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務連絡、毎月のミーティング時や、それ以外にも随時意見を受け付け、対応している。	何かあればその都度、施設長が個別面談を実施している。全体と各ユニットで会議をしている。全体では、備品・物品購入や研修の予定についての意見が多く飛び交う。ユニット会議では、利用者の1人ひとりのケア方針や情報共有をしている。管理者と計画作成担当者との連携がよく取れていて、職員間の仲が良いことで、利用者に寄り添う介護ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表者は個別面談を行い、職員の勤務状況の把握に努め、権利擁護についても十分配慮し、問題が生じれば速やかにその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士国家試験受験者の内部研修や実務者研修など、オンラインでの研修と対面での研修を織り交ぜながら、新しいスタイルでの研修の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、交流の機会や情報交換の場を持つようにしている。今年はコロナウィルスの影響でオンラインでの研修の参加の機会が多い。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の思いを汲み取ることに十分な配慮を行い、安心して話せる環境作りが出来るまで、施設に都合には合わせず、本人様にご納得頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望を伺い、具体的な対応例を挙げてGHでの生活を理解していただき、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よりご本人様に適した利用計画を立て、過去の事例にとらわれず必要なサービスを実行できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護するだけでなく、人生の先輩として年長者を敬い接する事に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の訴えに対して家族様にも対応を検討、協力していただき、より良いケアが出来る様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の馴染みの店との関係を保ち、ご友人との連絡交換も継続している。	家族に対して、ハガキを書いたり、電話でのやり取りをしていることで関係が継続されている。今では職員が馴染みとなり、「今日は来てるの？」と出勤を今か今かと待ち遠しくしている方もいる。テレビの前のソファが馴染みの場所となり、会話を楽しんでいる様子を評価員は目の当たりにした。リビングの席が今では馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の人柄を配慮しつつ、施設運営の都合にとらわれず利用者様の自発的な関係作りの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の相談にも、他の介護サービス事業所の紹介等、希望に沿える様、可能な限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を第一にとらえ、可能な限りその人らしく生活できるように支援している。	入居時に家族から生活歴を確認している。入浴時の1対1の場面や夜勤にも意見が出やすく、貴重な場となっている。さりげない利用者同士の会話も見守る姿勢で、聞き取るように工夫している。不安になった場合に、家族の方から直接電話をして頂いたことで安堵感が生まれた。洗濯物や作業にも意欲的に取り組んで頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの情報をもとに、出来るだけ在宅時と変わらない生活が送れるように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを基本とし、本人様の状態に合わせた柔軟な支援、対応をするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、必要があれば関係医療機関の意見も伺い、職員一丸となって適切な計画作成を行っている。	入居時に暫定プランを立てて、何もなければ基本半年毎に見直しをしているが、安定されている方は1年毎に見直しをしている。モニタリングは毎月実施していて、利用者に寄り添ったプランとなっている。介護計画は、カンファレンスを実施して、担当職員や管理者の意見を聞き取った上で、計画作成担当者が中心となり作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化する利用者様の状況把握に努め、個人の主観にとらわれず、介護に関わる全職員の気づきや様子観察の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設から情報収集したり、行政へも相談して迅速に対応出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の農産物を利用した祭事食等で利用者様に季節感を感じて頂く等、地域の特色を施設運営に生かせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の往診を中心に、必要に応じて訪問看護、病院受診に行ったり、専門医への受診も対応している。また、家族様対応にて、かかりつけ医の受診に行かれる方もいる。	かかりつけ医は、入居時に選べるが、協力医に全員が転医している。月1回の往診がある。母体の接骨院が何かある場合には、訪問してくれる。膝が痛い方には、動画の配信と直接適切なアドバイスを聞くことができた。協力歯科医は近隣なので、職員が連れていき、他科受診も職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な対応が必要と思われる場合は、些細な事でも訪問看護に電話で状態を伝えられる様、関係を密にしており、迅速に専門的な判断を仰げる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院へ、情報提供書を作成し提出している。現在コロナウイルスにより面会もできないことから、入院先へ電話連絡にて状況確認をしながら連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り家族様の意向を尊重しながら介護を行い、急変時はすぐ家族様に報告連絡し、協力医療機関に受け入れの協力をお願いしている。	看取りは実施していない。入居時に重要事項説明書にて説明し、同意を得ている。看取りをできるだけ最期までできるように食事などの配慮をしている。急変時には、協力医に電話連絡をして指示を仰いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練でAEDの使用方法や心肺蘇生法を、緊急時に備えて救急隊員から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を使用しての定期連絡訓練と法人本体からの支援の体制作り、近隣の自治会役員様にも施設の状況をお伝えし、協力依頼を行っている。	年2回火災、夜間想定で実施した。ハザードマップと避難経路はリビングに掲示し、連絡網は各ユニットの電話付近に置いてある。消防署の訪問があり、水消火器を使った訓練も行った。備蓄は、水、衛生品やマスク、消毒液を2日分程度保管している。気象情報を把握していて、台風などの場合には、食料品を多く買うように工夫している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症によりコミュニケーション能力が低下した利用者様にも可能な限り意思の疎通を図る様努力している。	呼称は苗字に「さん」付けだが、同性の方は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る際には、ノックや言葉掛けをしてから入室するようにしている。排泄失敗時には、「ちょっと来てください」と言葉掛けをして、周りに気づかれないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に画一的なスケジュールを提案せず、本人様の意思、意欲を可能な限り尊重しながら生活の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合った生活が出来る様、生活パターンの把握に努め、利用者様の希望の実現に必要な支援を行う様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者様には、レクリエーションの一環として、化粧をしたり、皆様散髪に出かけるなど行い、着衣についても本人様に選んで頂く事で気分転換もを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	祭事食等で食事に季節感を取り入れ、栄養補給にとどまらない食の楽しみを得、本人様の食の志向にも配慮するよう努めている。	3食ケイタリングだが、副菜は手作りの時もある。ご飯と味噌汁は施設内で作っている。行事食として、巻き寿司やお汁粉を提供し、おやつ作りとして、パンケーキを作ったこともある。お盆には、箸かスプーン、副食の形状、ご飯かおかゆ、と利用者の食形態の情報がわかるように記入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在食事は、食品業者に発注しており、カロリーや栄養面ではバランスが取れている。水分は飲み物の好みにも配慮し、摂取量が少ない方には必要に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの実施、義歯洗浄剤を使用している。また必要に応じて協力歯科医院の受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄周期を確認することで、ポータブルトイレの使用等、個々の心身の状態に合った排泄支援を行っている。	排泄チェック表を活用していて、オムツで入居された方が、リハパンに改善された。夜間のトイレも職員が介助することで、排泄ができるようになり、本人の喜びにも繋がった。布パンツで過ごしている方も数名いる。各居室にトイレがついていて、ない部屋は居室横にトイレが設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整や食事形態、体操など体を動かすことを意識している。必要に応じて医師の診断を受け服薬コントロールを実施する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分により、入浴を拒否される方もおられるが、無理強いはせず実施日や時間をずらす工夫し、状況に合わせて気分よく入浴していただけるよう支援している。	週2～3回。お湯は掛け足しで、浴槽に浸かる方が多い。ヒートショック対策として、ファンヒーターを置いている。入浴を拒否される方には、時間や職員を変えて言葉掛けをして、「どうしても一緒に来て」や車イスを使用して誘導する工夫が見られた。同性介助を希望する方には対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や衣類温度調節など、季節ごとの状況を考えながら支援し、安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧をファイリングし、いつでも確認出来る様各ユニットに保管している。薬が追加された際には、申し送りを行い全職員への周知し、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭きなどの家事手伝いだけでなく、体操や歌などのレクリエーションを通してさまざまな支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により、外出の機会は減っているが、ドライブに出かける等、季節を感じていただく機会を持っている。	近隣の散歩や玄関前の椅子に腰をかけて、日光浴をしている。雪かきやいもの収穫時に鍬を使って収穫をしたり、洗濯物干しや畳むのを手伝ってくれたりする利用者もいる。黒豆を頂いた際には、駐車場で豆のしょうやくを行い、ドライブがてらキャラクターのかかしを見に行ったこともある。	コロナ終焉後に向けて、今から計画をしてみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある利用者様には、職員が同行し、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話だけではなく施設のタブレットを活用し、家族様とLINEで繋がることで、ビデオ通話を利用し、面会ができない中でも顔を合わせられる機会ができ、好評を頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは身体状況に応じ、各利用者様で必要となる支援が異なる点に充分注意しながら、より快適な空間を提供出来るよう努力している。	天窓から明るい光が差し込む開放的なリビングでは、午前・午後ティータイムが日課となっている。季節感を味わって頂けるように、ひな祭りの作品を飾っていた。作品を大きくすることで、作業がしやすく、見えやすい工夫がされていた。テレビの前の椅子やソファに腰かけて、会話をを楽しんでいる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごすことが好きな方もおられるため、共有スペースで過ごすことを強制せず、それぞれの利用者様が安心して過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設からの制限は基本的に設けず本人様、家族様の自由にご利用いただいている。	備え付けは、エアコン、ベット、サイドテーブル、イス、床頭台、洗面台、施設のカレンダー。1部の部屋にはトイレもついている。TV、携帯、本、化粧品、家族写真が持ち込まれていて、自分らしい趣味嗜好が反映された空間となっていた。また自分で模様替えをする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレや各個人の居室、洗面台等、出来るだけ自身で解る様表札を設置している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない